

20161009 伝道4章 「三つよりの綱」

目標：御言を実際に読み、例話を土台にして考えることにより、私たち信徒の関係は人同士と神の三つよりであることに気付く。

聖書箇所：伝道の書4：9-12 時間：10分

暗誦聖句：「三つよりの綱はたやすくは切れない」(伝道の書4：12)

道具：ホワイトボード、ペン、ひも三本、御言(4：9-12)を大書した紙か各人の聖書

対象者：小6×1 小5×1 小3×3 小2×2 未就園児×4

留意点：

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	聖書を実際に読んでみましょう。 聖書は何のことを言っていると思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> 友達 神様 結婚式 わからない 	当教会では、子供たち各人は聖書を持っている。良く忘れてくるので、事前に持っていることを確認する。
課題探究	6分	先生はこの箇所を読んで、こういうお話を思いました。 なぜ元気な人々が死んで、シングとケガした人が下山できたと思いますか。 先生はこのことが、私たちの歩むべき生き方だと思うのです。 聖書は、最後に(暗誦聖句)を言います。 三つよりの綱って、なんでしょうね。	<ul style="list-style-type: none"> 背負ったので、密着し、温めあえた 	神様という答えは、出にくいかもしれない。状況がイメージしやすいため、目に見えるものから考えると思う。この答えは、考えていない時に起きるとされる。揺さぶりをかけて、考えるよう促す。 インドの大伝道者サンダー・シングの雪山の遭難の話を引用する。 ある時、サンダー・シングが雪山に他の人たちと登った。吹雪で遭難した。みんな下山しようとしたが、一人、ケガをして死にそうな人がいた。 シングは、彼を助けようと思ったが、みんなは、それではと二人を残して行ってしまった。 シングは仕方がないので、彼を背負って下山することにした。 彼がへとへとになりながら下山したあと分かったのは、先に出た人は皆凍死したということだった。 答は直接出なくともいいのだが、考えさせるのが楽しいだろうと思われる。
まとめ	2分	こういうものです。 三本をよると、ただの三本より、強い紐になるんだそうです。 先生は、これは、人と人との、もう一方、神様が加わった姿だと思うのです。これは切れないんだぞと。 私たちお互い仲良しですが、それに神様が加わると、絶対切れない強い交わりになるのです。この交わりを、もっと多くの人と持ちたいものですね。 暗誦聖句	<ul style="list-style-type: none"> 三本のひもでできた綱 わからない 	板書を示し、前段よりもう一段踏み込む。 子供たちの目の前で、ひもで三つよりをする。実際引っ張ってみたいが、一本でも切れなかったり、ハプニングが起きがちなので、思考実験だけで済ませる。 提示でいい。各人がそう信じてくれればよいことだからである。
				187号のテーマからの反映。